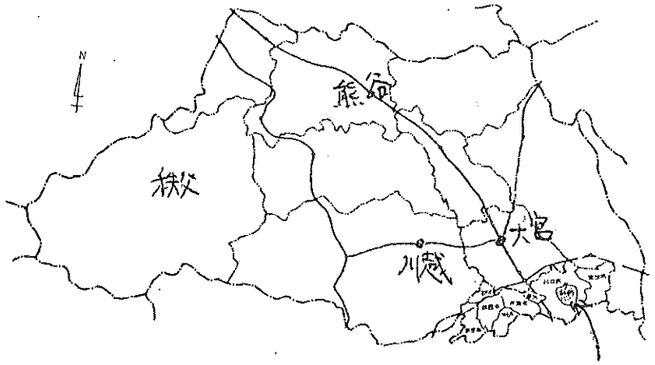
歴史教育者協議会　兵庫・神戸大会　第２３分科会　障害児教育　報告

調理で世界が見えるか・・・・・
社会認識の教育をめざして

地図



鳩ヶ谷 6人
5.9km²

新潟 段階

埼玉県歴教協鳩ケ谷支部
小　林　幸　雄

２００７年８月

6×2=12
5×3=15 28コマ
1

1、課題

「調理で世界は見えるか」というテーマをかかげたが、私の結論は「見えるともいえるし、見えないともいえる」というもの。つまり、調理という営みへの入る前と後の学習次第である。以下、１学期の調理実習の姿を示し、あわせて社会科の4つの型なるものとの関連で考えたい。

つぎに、生徒総会の実践から、考えたい。社会認識の学習にとって、社会的な実践の持つ意味は決定的であり、生活の場での自治活動は、それこそ社会力(主権者としての力)形成の重要なステージである。

さらに、今回は中学校教育とその後をつなぐ「進路学習＝指導」の問題を提起したい。中学校複式学級（特別支援教室）から、生徒はどこへ進むことができるのか。出口はどう用意されているのか。埼玉県では今年「高等養護学校」が２校設置された。そして来年は高等学校内養護学校高等部分校が３校設置される。わが３年の５名の生徒はもろに影響されることになった。昨年度の事例と比較して、今後おきることが予想される問題を考えたい。

2、実践の提示と総括

A，調理実習から学ぶ　資料１

B、生徒総会への取り組みから学ぶ　資料２

C、進路学習　資料３

複式学級の生徒の構成の広がりと進路希望の多様性
軽度の知的障害の生徒が複式学級へ
通常学級から複式学級への流れ
通常学級では「もたない」層の存在（いじめ・不適応などから不登校へ）
… 複式学級で毎日いやがらず登校する子どもの姿に喜ぶ保護者
保護者の養護学校への不満＝学習面の薄さ；学校での時間の短さ；重度の生徒の存在から質の低さを想像；

多様性をうける制度（高等養護学校と普通高校内養護学校分校と）とその矛盾。
あらためて障害児教育で育てる力とは何かを問う。

3、　総括のためのノート　資料４

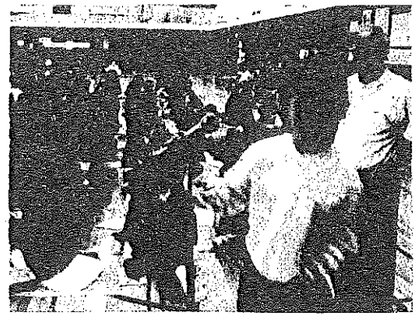
4、　あとがき

あと数ヶ月で、教職にひとまず区切りをつける私の大会での最終報告である。

課題は多いが、個人のやれることは限られている。それでもここまで歩いてきたのは、全国大会に「障害児教育」の分科会があり、みなさんと１年に１回お会いし、刺激をうけ、このひとたちに、毎年つたない実践とその考察をしめしたいと考えてきたからである。感謝するとともに、いつまでもお元気でいてくださいと、あいさつするものである。

資料２

鳩ヶ谷中学校複式学級特別活動指導案



2007年5月16日
第３校時　複式の第１教室
指導者　　小林　幸雄
　　井上　麻里
複式学級生徒全員（計１１名）
１年　男子１名　女子３名
２年　男子１名　女子１名
３年　男子３名　女子２名

１，題材　生徒会の議案書を討議し、質問や意見の形成をめざす。その成果をもとに、生徒総会への実質的な参加を可能にし、生徒の主権者形成への一歩にしたい。

２，子どもの状況・・・ことば・表現・社会性

	ことば	表現	社会性
１年情　男子Sa	達者だが	達者	○
情　女子Tu	言葉よりサイン	叫びと動作とサイン	
知　女子Ta	言葉が少なめ	達者	○
知　女子Ha	豊かな語彙	はにかみ・小さい声	△
２年情　男子To	漢字苦手	達者・はにかみ	○
知　女子Ma	言葉少ない	人見知りの内弁慶	
３年情　男子Ko	日常語弱い	達者（大人の言葉遣い）	△
知　男子Ii	言葉少ない。発音に弱点	表現欲は旺盛	△
知　男子Ue	達者だが漢字弱い	達者	○
知　女子Si	達者だが自信なし	達者	○
知　女子Ma	達者だが漢字が弱	達者だが、はにかみ・自信なし	○

３，教育課程と指導計画
保護者会資料において「今年度の活動内容」８点を提起した。
そのうち、４「自立を見通し、生活に根ざした学習活動の重視」と
６「やさしい心をもち、場に応じたコミュニケーションをとり、豊かな表現力を培う活動」に関わる。
そのための活動は、
① 春と秋の生徒総会に向けた活動
② 毎週の委員会活動（直接的には給食委員会のみ）と学級活動
の２つである。今回の授業は①の一環である。そして①は以下の過程が含まれる。
（１）生徒会の役員選出過程（演説会・投票など）　３時
（２）生徒総会への議案書作成過程（給食委員会参加）
（３）議案書の討議と意見・質問の形成過程　３時（本時２／３）
（４）生徒総会への参加（総会で、全校規模での討議への参加）　２時

（５）諸決定の検証過程
本時は、上記指導計画のうち、（３）の第２時に当たる。

４，どういう力を形成しようとするのか。また、そのことの意義。
読む力・理解する力・討議する力・質問を考える力・意見を持つ力・自分の意見を発表する力。これらの力は、日本国憲法にいう主権者としての国民の形成に必要な力に関わり、子どもの権利条約にいう「意見表明権」にも関わる。さらに、「社会性にとどまらず社会力を」という主張とも関連する。また本校の教育目標には「よく考え進んで学ぶ生徒の育成」をあげている。

５，本時の学習
（１）ねらい　上記４の諸力の形成

（２）学習過程

	学習活動	留意点	資料
導入 ５分	議案書の読みの確認（前の時間との関連を確認する）	・各自の議案書の配布 ・読み込みの程度の把握	議案書は討議ごとに毎回集めてある。
展開Ⅰ １５分	質問と意見を考えるⅠ **成果と問題点・原因・責任**など	・総括について扱う ・　委員会ごとに話し合う ・　時間の見通しにより、重点的に扱うことあり	議案書 語句のカード 白板とマーカー
展開Ⅱ ２５分	質問と意見を考えるⅡ **要求・注文・重点・分析（必要度）** **など**	・方針について扱う（方針はすべて扱う） ・委員会ごとに話し合う	議案書 語句のカード 白板とマーカー
結 １０分	これからの課題を確認する	・　発言者を決める ・　発言の練習を行う事を告げる	議案書 語句のカード 白板とマーカ

６，評価の視点　①　質問・意見の量　　②　質問・意見の質（**成果と問題点・原因・責任・要求・注文・重点・分析**）　③　子ども同士の働きかけの質（どういう支援が互いにできたか）

７，事後指導　・保護者への啓発（このような活動の意義の理解）
・上記3の②の日常の活動につなげ、生かしていく。

資料3 その1

鳩ヶ谷中学校複式学級

道路便り　その３　２００７年７月１３日

県立養護学校さいたま桜高等学園への学校見学に４名参加（7月11日）

校舎・設備の新しさが印象的です。・・・・学科・コースごとの専門学習をみました

1、環境・サービス科は

メンテナンスコース・・・ビルの清掃の実習をしていました。

環境コース・・・・・・・ペットボトルから、植木鉢をつくる実習（溶かして成型する機械があるのです）

2，生産技術科は

農園芸コース・・・・・　学校内の畑で花・野菜の栽培の実習

フードデザインコース・・・パン作りの掲示がありました。

3，工業技術科は

木工コース・・・・・雑巾かけづくりを機械で取り組んでいました。

インテリアコース・・インテリア室が隣にありました。

4，家政技術科は

福祉コース・・・・・介護について、講義を聴いていました。

服飾デザイン・・・・縫製（ミシン・手縫いなど）に取り組んでいました。

１週間の時間割をみると、上のような専門の学習が半分を占めています。２日間は専門だけ（6時間連続）、１日は半分（3時間）という具合です。

就職１００％をめざしている学校の迫力を感じました。

ただし、気になったこと、　1、体育館がない。プールがない。

2、専門コースの分け方（生徒にとって、そういうコースを選択する要因をどう考えるか）

参加者の質問は３点（入試のこと・専門のこと・就労100％のこと）に集中しました。

- 入学の条件３つ　１人で通学できること。知的障害の証明。基準は県の要項に従う。
- 専門学科のこと　入学後は変更できない。コースは２年からしぼり、どちらかに限る。
- 就労 100％をめざして、企業とのパイプ造り。実習受け入れ９０社になった。就労支援センターと連携してアフターケアする。実習　１年２から４週間。２年４週間。３年就労できるまで継続する。

今後の予定

川口養護　学校見学　１０／９　１１／１　１２／７

体験学習　１０／１０　１０／１１　１０／１６　１０／１８

以上　AM１０：００から　１２：００まで

入学選考連絡会　１０／３１　PM３：３０から４：４５

048―283―4111

さいたま桜　学校公開　８／２９　９／２６　AM１０：００から　PM０：３０

入学説明会　９／２６　同上

048―858―8815

草加西高校内

三郷養護分校　入学選考説明会　８／２１　AM９：３０から　１１：００

048―946―6607

場所　草加勤労福祉会館

８／２２　PM３：００から　４：３０

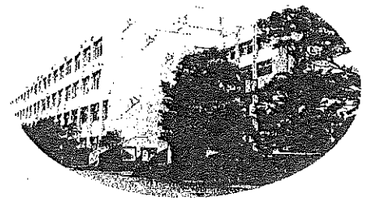
場所　谷塚　文化センター

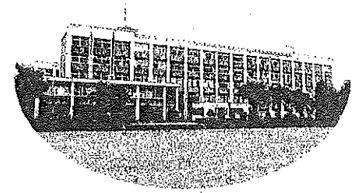
平成20年4月　開校予定

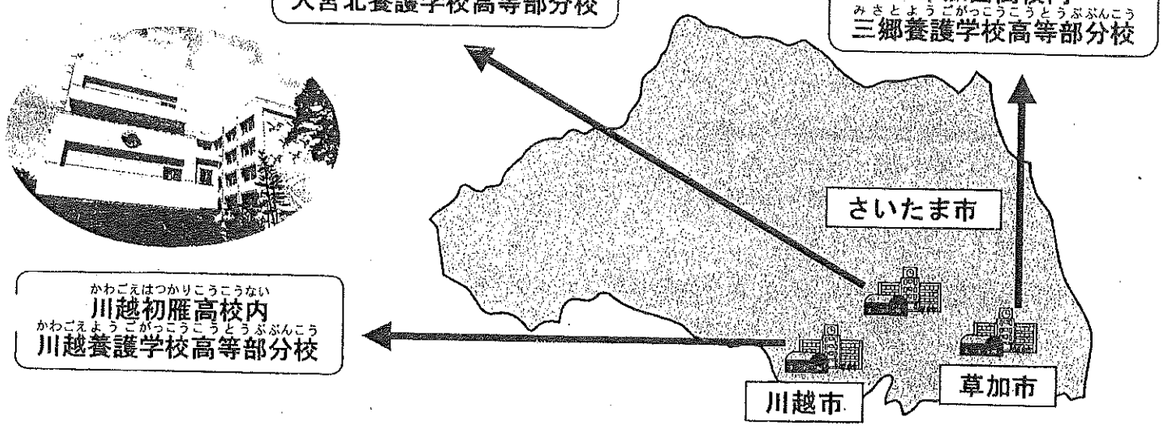
高等学校内（こうとうがっこうない）

養護学校高等部分校（ようごがっこうこうとうぶぶんこう）

資料3 その2







社会で自立できる自信と力の育成

埼玉県のマスコット コバトン

所　在　地

□ 大宮武蔵野高等学校	さいたま市西区西遊馬１６０１	（JR川越線	指扇駅より徒歩約１５分）
□ 川越初雁高等学校	川越市砂新田２５６４	（東武東上線	新河岸駅より徒歩約２５分）
□ 草加西高等学校	草加市原町２－７－１	（東武伊勢崎線	新田駅より徒歩約３０分）

埼玉県教育委員会

資料3 その3

入学選考について

募集人員

各学校とも１学年１６名（普通科）を募集します。

出願資格

次の各号に該当する者です。

1　盲・ろう・養護学校中学部若しくは中学校を卒業した者又は平成２０年３月に卒業する見込みの者

2　原則として保護者とともに県内に居住している者

3　知的障害の程度が比較的軽い者で、自力通学が可能な者

※受検には、知的障害のあることがわかる書類等の提出が必要です。（高等養護学校と同様）

選考方法

学力検査（国語・数学）、運動能力検査、作業能力検査、面接、中学校長の作成した調査書に基づいて総合的に選考を行います。

通学区域

通学区域は設けません。県内どこからでも受検できます。

入学選考の日程

高等養護学校と分校の入学選考は同じ日程で行います。併願はできません。

１２月上旬　　入学願書提出・志願先変更期間

１２月中～下旬　入学選考・発表

※入学許可候補者となった者で、入学確約書を提出した者は、他の県公立学校に出願できません。

分校についての　Q&A

Q　分校はどういう学校ですか

A　学科は普通科です。職業教育に重点をおいたカリキュラムを編成します。分校では６教室の他、保健室や特別教室を設置し、体育館やグラウンドは高校の施設を共有していきます。

高校生や地域との交流にも取り組み、教育目標である「社会で自立できる自信と力」を育成していきます。

Q　分校のことをもっと知りたいのですが

A　学校を良く知って受検してもらえるよう、学校説明会及び入学相談を行います。保護者の方と一緒に参加してください。また、担任の先生ともよく相談して下さい。募集要項につきましては、８月下旬に開設準備室から発表する予定です。

Q　どんなことを学習しますか

A　教科学習では、国語、数学、体育、家庭、音楽、美術、情報等。作業学習では、メンテナンス、福祉、情報、物流事務等のサービス業や食品、工芸、栽培などのものづくり等の学習を行います。

高校と分校では、授業内容が違いますので、授業は別々に行います。交流については他県の例などを参考にしながら検討していく予定です。

問い合わせ先

教育局県立学校部特別支援教育課　養護学校改革担当

さいたま市浦和区高砂３−１５−１　℡０４８−８３０−６８８３

資料４　総括のためのノート

１、私の３つのこだわり

①障害児学級においては、教育課程の「教科」として「社会科」をおくべきだという立場。「生きる力」を形成することが教育の課題だといわれる。しかし、「生きる力」の形成には２つの方向があるようだ。短絡的に就職と直結していく方向と、基本的な教養を重視する方向の２つが。ともに、生きる力を考えているが、どこに分岐点があるのか。２に示す、「適応」としての社会性の形成に限る傾向と、主権者としての力＝社会力の形成を視野におく立場のちがい。後者は、日本国憲法の人権・国民主権・平和を、教育の基本におき、そこから社会認識の課題を教育課程に設定することが必至であるという立場である。

②そして、その社会科は、障害児の発達段階を考慮して、小学校社会科のある段階の内容を学習しようというのではなく、あくまでも中学校の社会科を構想する。ここでの中学校社会科の内容は、３分野（地理･歴史・公民）を意識し、主権者としての力を形成するというもの。　それは、どういう社会科なのか。中学３分野の単なる省略体ではなく、ひとまとまりの知識群。地域にこだわり、日本・世界に突き抜ける。歴史は世界史のなかの日本史。政治・経済・社会の領域は、日本国憲法の３原則の理解に資するものとして、構成する。

③また、社会認識の教育が可能な領域を全教育課程の中に見出し、どこでもそれを追求するという立場。いいかえれば、社会認識の形成を総合的にすすめるということ。具体的には、他の教科の中で、特別活動の中で、校外学習の中で社会認識を考えるということ。

２、社会認識・社会性・社会力についてのノート

社会性の定義・・・

A　「個人が存在する社会のなかにあるルールやふるまい方を身につけ」「自分らしく生きていくこと」。「社会化」と「自己形成」（一松麻実子著『人と関わる力を伸ばす』）

B　「社会の中でうまくやっていく術にたけていること」「社会に適応する術」

（門脇厚司著『子どもの社会力』）

社会力・・・

よかれと思う社会を構想し、それを作り、運営し、その社会をさらに良いものに変えていく力。その下地としての「十全な他者認識や他者への共感能力」。

（門脇　前掲著）

社会認識・・・

社会の本質を十分に理解し、その物と他の物とをはっきり見分けること。その知識とそれをつかむ過程。その深さ・高さを問う用例あり。（『明解国語辞典』第４版より構成）

以上から、次のような相互関連を考えた。

【社会性≒社会認識】→【社会力≒社会認識】

（注）　社会性・社会力には、それぞれに見合った社会認識がある。

ここで、「見合った」というのは、社会認識の量だけではなく、量とともに質が関係しているという把握がある。この把握から、教育の課題を引き出すと、社会力形成に必要な量と質をもった社会認識が存在し、それをさまざまな教育の場で養うことを課題ととらえる。

また、社会性は不要ではなく、社会力へ突き抜ける必要がある　ととらえる。「適応」の側面を軽視してはならないと考えるからです

（06824・07701補正）

3、社会科の模索・・・

この５年の取り組みには以下の４つのパンターンがあった。

第１型　中学社会科の内容を**学習方法の工夫**で

①日本地理・・・地方区分（地図や絵本）県名や都市名を意識する。
産物地理的な展開を行うが、途中から調理実習であつかう食材と関連させる。
例、いわし→九十九里のイワシ漁（物語教材）→「魚の歌」→いわしのつみれ汁（調理実習）
・香川県→讃岐うどん→手打ちうどんづくり（調理実習）
・埼玉（給食でのさきたまロール）と、関連させての学習。

②歴史・・・時代ごとに、加古里子の絵本で学習。人物史はまんが日本史を教材にして学習する。生徒が持ちこんだ絵本「ひろしまのピカ」（丸木俊作）を読む。絵本の有効性を意識する。また、時代名のカードをつくり、その順序や、時代にイメージとの組み合わせを何度も繰り返した。

③公民・・・戦争と平和の学習として、イラク戦争前夜の状況と関わってすすめる。そこでは「戦争と平和の絵本」を使った。
憲法学習として「日本国憲法の前文」の読み込み、キーワードのカード化、ニュースや典型的な事例をもとに、キーワードの理解を深める学習の展開。
以下の計画は2003年度のもの。

1、戦争をなくすにはどうしたらよいか。
2、君は、戦争に賛成か、反対か。
3、国連は役に立つか。
4、イラクとアメリカは、何でもめているのか。
5、再び国連。何を話合っているのか。（国連学習は絵本で）
6、日本の立場。憲法と小泉さん。前文の第１段落、９条を読む。
7、戦争の歴史（15年戦争、日清・日露戦争）
8、どうしたら戦争をなくせるか。（世界的な反戦運動にもふれる

第２型　学習方法から、内容の再編へ

（1）調理実習や調べ学習から、食（＝社会的なかかわりをもつもの）を学ぶ
家庭科（調理実習）・・・隔週２から３時間
生の素材（魚、肉、小麦粉）を使って手作り（うどん・ぎょうざの皮・いわしのつみれ）の料理をめざした。その取り組みの中で社会科との関連を意識する。また、米にこだわって、「生活」単元での学習と結合して展開した。（カレー・キムチチャーハン・おにぎり・もち・玄米でおにぎり・オムライスなど。）
・・・食は第４型に再度でてくる。そこでの扱いは変化している。

（2）時事問題を扱うことで、社会を学ぶ
イラク戦争を扱うことから、公民の内容へ。「戦争をどうしたらなくせるか」

という課題学習に取り組み、憲法の平和主義の学習にすすむ。

（3）社会科の時間だけでなく様々な教科との結合を意識する。
国語教材の中に、社会認識にかかわる教材がある。

第３型　小学校の社会科から学ぶ

低学年社会科・「生活科」や中学年の社会科の歴教協の実践から学ぶものが多かった。
①学校調べ（これは、年度当初に必ず取り組む）
学校探検と地図づくり、学校で働く人へのインタビュー・発表会
②地域調べ
地図学習の発展として、また校外学習の事前学習として、学ぶ。
お店調べ、**「さきたま古墳群」や「秩父事件」を学ぶ**
地域の戦争遺跡の学習

第４型　社会認識の形成を様々な場所で（総合学習？）

様々な学習活動を、社会認識形成につなげる。

（1）　家庭科調理実習の食材は、以下がふくまれる。
① 肉を使った料理（豚肉・牛肉・鶏肉）
② 魚を使った料理（さんま・さけ・かつお・いか・いわし・あじなど）
③ 穀物を使った料理（大豆・米・麦・そばなど）
④ 野菜を使った料理
そして、その生産・流通・安全・価格などについて、地理的・歴史的・公民的なアプローチをおこないつつ学習の成立を試みる。

（2）生徒会活動・・・自治活動の主体形成（主者形成の基本線）また、この領域は通年の課題である。
①要求の掘り起こしから。議案書の討議とからめて、要求を引き出し、質問や意見としてまとめた。そして、総会での意見発表者を決め、その準備として、発言の練習などを積み重ねた。
②当日の発言と生徒会の対応。その結果、代議員会を通じて、全校クラス討議が実現した。
③給食委員会や、清掃美化委員に参加する。

4、社会認識の内容への私見

(1)社会認識の形成・・・社会認識の基礎的なイメージ(私案)
① ひとびとのことに関心を持ち、知ろうとする。
② 自分と他人、ひとびととのつながりを知り、違いや区別がわかる。
③ つながりには、様々なあり方があることを知る。
④ つながりの総体(社会)について意識する。
⑤ 社会には、色々な事件がおきていることを知る。
⑥ 事件のおきる「わけ」があることを意識する。
⑦ 社会への価値判断(正・不正、良・悪、益・害、好・悪など)を、事実にもとづいて行う。
⑧ 社会には「うそ」というものがあることを知る。

ここから、「うそ」は悪いという価値を学ぶのではなく、「うそ」の社会科を学ぶ。

⑨ 社会には時間(歴史)があり、社会生活が展開している空間(自然・地域)がある。

(2)社会認識の意味 ・・・・人間にとって社会認識とはどういう意味をもち、どういう機能を果たしているのか。すべての人間はある社会認識を持っている。それはすべての人間が社会的な存在だし、社会的な関わりの中で人間になるからです。

(1)へのコメント

①他への好奇心・・・おもしろい他者・めずらしい他者の発見

②つながりの発見、関係を発見しよう。あなたと私、私と彼、どうつながっているのか。

《ちがい》の発見、《違い》の前提は、《同じ》の発見がある。《同じ》から《違い》へ。

③つながりをたくさん発見する中から、つながり方の違いがわかってくる。そこから、様々なあり方が見えてくる。様々性は、一定の整理のうえに、型のようなものが見えてくることを意味している。ただいろいろあるというのとは違う。量の中に質を発見しているのだ。

④ 総体が見えてくるとは、どういうことか。ここではさらに、単なる量の集積ではない。

さらに、質の見極めが必要になる。どういう質、様々な関連、様々な関係、矛盾、闘争、調和、妥協、合意。

⑤ 事件とは。日常生活の繰り返しとは異質なもの。生命・財産・人権の侵害としてあらわれる。

⑥「わけ」をつかむことには、原因と結果＝因果関係や理由を問い、答えるという経験の積み重ねが必要だ。日常の生活の中でそれがどう積み重ねられているか。学校でも。問答無用の精神では、このみちは切り開けない。

⑦この社会では、倫理的なものは存在しているのか。「何でもあり」を批判する規準自体が揺れている。「何でもあり」な状況に一番責任を持つものは誰か。教育者の社会認識が問われている。日本国憲法を貫く歴史性の理解。

⑧根本的な「うそ」は、どこにあるのか。

⑨社会事象の展開の条件。具体的な社会の学びは、このレベルでおこなわれている。

5、実践の断面

① 戦争学習は平和学習だ

2003年障害児学級におけるイラク戦争の戦前学習

「戦争をなくす方法を考えよう」というテーマ学習を１月末から、週２回の社会科で追求した。その中での印象的な表現を以下に紹介したい。

1月30日 戦争をなくす方法を考える。

A ・ケンかをしないで歌う。
・人はいじめないで仲よく。
・おいしいものを食べる。
・うんこをする。うんこをし終わったらおならプーをする。
・戦争をしないように普通の服に着替えてしごとをする。
・人を殺すより子どもを作ってください。
・買い物にも行ってね。
・家電製品を買ってください。

B ・ケンかをしないで魚の歌を歌おう。
・人をいじめないで仲良くする。

・みんなではらいっぱい食べよう。
・みんなで気持ちよくウンチをしよう。オナラをしよう。
・ひたすらにげる。
・たたかわないで会社に行って仕事する。
・武器はすてる。

これは、同じ授業に参加した生徒２人の授業メモである。「戦争をなくす方法には何があるだろう」ということで、いろいろ意見を言い合い、わたしも突っ込みをいれたりしながら、まとめて板書したものを見て、生徒がそれぞれメモしたものである。

その後、２月３日に別なグループで話し合ったら、以下のような内容が出された。

・ 小泉さんが、ブッシュさんを説得する。
・ 小泉さんに、ブッシュさんを説得するように私達がお願いする。
・ 色々なところで、色々な人が反対の声をだす。

世界的な反対運動の波動が、このクラスにも及んでいる。また、ここでの話し合いには、イラクをめぐる具体的な状況がふまえられている。しかし、そのような具体性が欠けているからといって、上記A・Bの文を否定的にとらえる見地にたつものではない。A・Bの味わいを貴重なものと思うものである。

３月１８日に「平和とは何か」という問いに、「朝寝坊できること。友達とあえること。マイペースでウンチができること。大きな風呂にゆっくり入ること」などを出し合った。アメリカのイラク侵略はその２日後に始まったのである。そして、空爆は確実にイラクの「平和」を奪うことになった。

② 地図学習は基本のひとつ

1、学校の校内地図づくり（校内探検をふまえて）
2、自分の家までの地図（順路図）
3、市内の地図（自分の家・公共的な建物・道路などをてがかりに）
4、県・地方・日本・世界図を教室内に常に掲示し、参照する。

コメント：１・２は自ら地図をつくる課題である。そこで問題になるのは客観的な表現の獲得にどう接近するかだった。そもそも地図にならない生徒もいる。集団での話し合いの中で、つかめるところも出てくる子もいる。道路の表現の仕方を、他の生徒の地図から学び、次に描くときに取り入れる子も出てきた。

３で、方位・距離・地図記号の一部を学ぶ。２の地図の客観性をさらに確かめられる。

③ 「合宿」＝宿泊学習から

毎年の秋に行なわれる複式学級独自の「クラス合宿」（一泊二日）について紹介したい。

合宿は中学の場合３年で１サイクルと考え、筋の通った内容を考えようとした。埼玉を基点に関東へ視野をひろげ、以下のことを考慮した。自然の多様性・歴史・さまざまな産業・人々との出会い。そのような視点で学習をくみ、最後にまとめの発表会を開く。

具体的には、次のような内容の合宿を行なった。

1年目 富士山、河口湖、甲府盆地のぶどうづくり、 箱根の関所、小田原城
2年目 埼玉の歴史と自然、埼玉古墳、秩父吉田町秩父事件、長瀞、荒川、そばづくり、養蚕
3年目 千葉の海、犬吠崎、銚子の魚市場、九十九里浜、船橋三番瀬、千葉港、冷凍倉庫
4年目 富士山 富士五湖 火山性地形（こうもり穴など）勝沼ぶどう狩り

5年目　埼玉の歴史・自然・産業　さきたま古墳　丸木美術館　川の博物館　牛乳工場　こんにゃくづくり　みかん狩り

千葉の海をテーマとした合宿（3年目）の事前事後学習は、次のようなものであった。

魚の調理実習。銚子漁港　九十九里浜、三番瀬、千葉港についての調べ学習。作文などによる合宿の総括。社会科としての漁業学習。発表会にむけての掲示物づくり、発表の練習。

ある生徒の学び（2年目から4年目に参加）

2年目の秩父事件での蜂起の場面を示す絵図に注目＝旧士族の刀に注目（武器マニアなので）

3年目の千葉の海では、機械好きの彼は船に注目。船の絵をたくさんあつめ、漁船・輸送船・千葉港での遊覧船などに喜ぶ。

4年目の富士山、こうもり穴の探検でヘルメットかぶって狭い穴にもぐる。途中ヘルメットをかぶった頭を天井にぶつけた。この印象が強く、事後のまとめで、初めてその印象をかたり、表現した。発表会でも、はじめて自分の言葉をつかって説明した。

6、ひとつの中間的なまとめ

結局、この6年にわたる障害児教育の分野での私の仕事は、それ以前の中学社会科の教員としてのこだわりを活かそうとしたことにつきる。活かす術は、組合教研や麦の会から学んだ。取り込む力は私の力量でしかないので、仕事が求めるものに比し不十分なものに終わっているだろう。しかし、当初持った私のこだわりは、後進の人々にもすすめたい。通常の学級での仕事の成果をいかすべきだということだ。もちろん社会科にかぎらない。

資料4　総括のためのノート（続）「うその社会科」の補注

大会の論議の中で、「うその社会科」について、質問がでた。具体性が求められたのだが、もともと社会認識についてのスケッチは、実践の中からでたアイディアの一群であり、その場での答えは不十分で、質問者にも納得できない結果におわっている。もちろん実践的にも未展開である。

うそ・・・

① 事実ではないことを、人に信じさせようとして言うことば。

「うそをつく」「うそで固める」「うそいつわり」「うそつき」

対「ほんとう」「まこと」「真実」

類「ほら」「いつわり」「でたらめ」「空言」

② 正確でないこと。

③ 「うそのよう」という形で信じられないくらい不思議だ。

・・・・以上、三省堂「例解　新国語辞典」より

メモ

- うその定義
- うそをつく動機
- うそをつく狙い
- うその効用
- うその帰結

・うその分類・・・大きなうそ・小さなうそ。個人的うそ・社会的うそ。

政治的なうそ・・・小泉劇場のうそ（昨年の総選挙）

9・11以降のうそ（テロをめぐって、アフガニスタン・イラクと続くアメリカ合衆国政府のうそ）

日常生活のうそ

うその学習の3つの要素

1、日常的なうそを見抜く訓練から、大きなうその事例研究。段階か併行か。

2、うそによりだまされ、その結果何がおきるのか。うその効果についての学習は必至。

3、うそをつく動機の学習

資料４　総括のためのノート　続々

障害児の学びの理論化のためのスケッチ

1、個別か集団か（障害児教育での「個別的な指導計画」の流行の中で）

集団学習のイメージ１・・・一斉学習（教員の講義式：上から下へ）

集団学習のイメージ２・・・子供同士の学びあいの組織として

教材に向かい合い、その多面的な学びが保障される集団

個別の学び・・・教材への個別的な接近のみ・指導は教員が

2、系統的な学びとは

教材における系統性・・・教材構造の系統性・・・学ぶ場合の順序性

易から難へ

単から複へ

一から多へ

学ぶ主体にとっての系統性

3、体験からの学び

体験と主体の関わり方が規定する　　つながりが

よそよそしいか、フレンドリーか

体験の質・・・自然か

社会か・・・生産・生活・歴史

文化か

体験からの学びを規定するのは「言葉」

林間学校の体験学習の場合

林業体験＝下草とり　のこぎりを使って・枝を選ぶ・枝を集める

その意味の説明＝森の育成・水の質への影響・漁業への影響

農業体験＝畑の雑草とり　くわを使って　雑草の弁別　雑草の処理

農産物の加工＝ジャムづくり　野菜（トマト・セロリ・にんじん）・さとう・調理・

社会の中での機能の一部を実際に体験すること

言葉の獲得＝社会･自然を観、考える道具としての言葉

そのための言葉の系統性、この言葉を知っていると、あるいは使うと良く分かる＝自然・社会がわかり、それを人間のために使える＝社会力の形成するための言葉を。国語学習でのことば学習との違い。

資料４　総括のためのノート　続々々

体験から知識・認識へ・・・障害児教育と社会科のために　　歴史地理教育　454号

「歴教協低学年社会科の到達点・・・『はたらく人』を中心に」森脇健夫より

1963年の実践　**お話教材など間接経験的教材のみ**が使われ、授業で**「ことば」の学習**が行われている。

「どうやってみても、国語学習（あるいは読み方学習）になるのです。」

1969年実践　ねらい・・・いろいろなものが作られる。雇う人と雇われる人がある

賃金をもらって暮らしている。大勢の人が働く工場と　少ない人で働く工場とがある

工場の見学・・・工員へのインタビュー　労働の実態

教室での話し合い・・・機械化しての変化・賃金と雇い主のもうけ

やすみとアルバイト

社会の諸事実をありのままに見させ、**正しい知識**をつけると共に、その事実の中にひそむ**諸矛盾や不合理性**を発見し、**科学的に**メスを入れるという学習

1986年実践　目標　1、**原料から製品への変化**の様子をつかませる。・・・**機械と人間の役割・関係**

2、**工場で働く人の姿**をしっかり見させる。・・すごい、はたらくってすばらしい。

授業経過

1、パンづくり　　自分たちで**つくる**。給食のパンとの**比較**

2、パン工場の見学

事前指導（必ずみること）①どんな機械があるの②人はどんなことをしているか③パンがどうやってできていくか

実際の見学

絵を描く　働いている人　機械

3、パン工場で**働く人**について

働く人の１日　工夫・苦労

まとめ　　手紙を書く

・　（ここで使われている「ことば」は、どういうものか。・教師が与えている「ことば」。生徒が持ち込んでいる「ことば」。その分析をしたい。）

低学年社会科実践史の４つのモメント

① 低学年で育てるべき社会認識の基礎

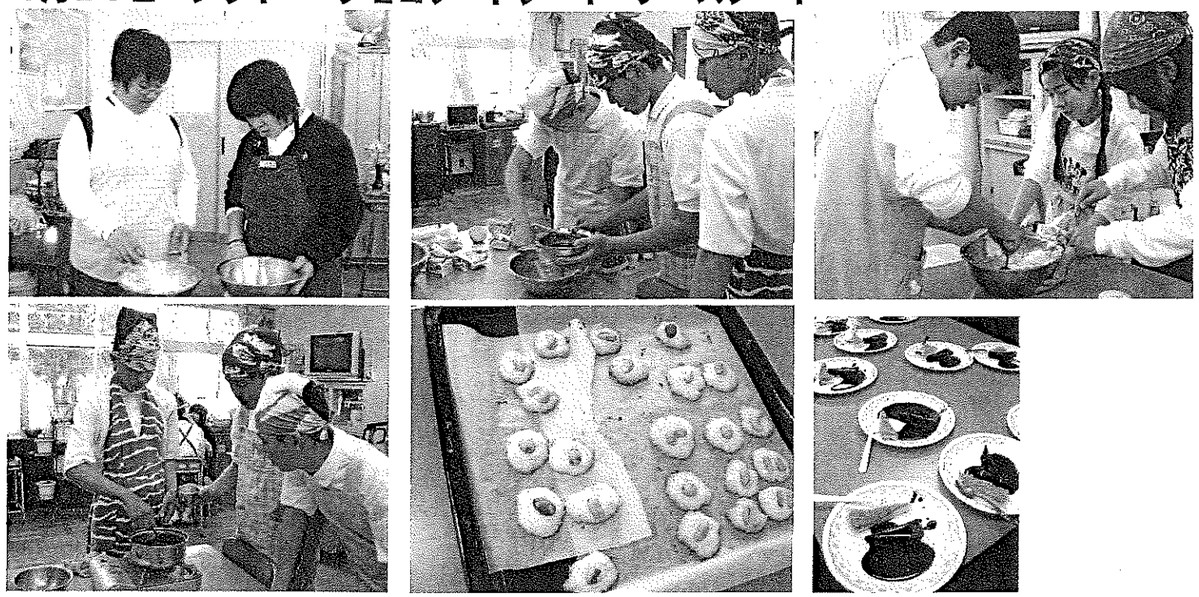
② 教科の構造　あるいは他教科との関連

③ 社会、子どもの変化

④ 新たな教育内容の創造、教材・授業方法の開発

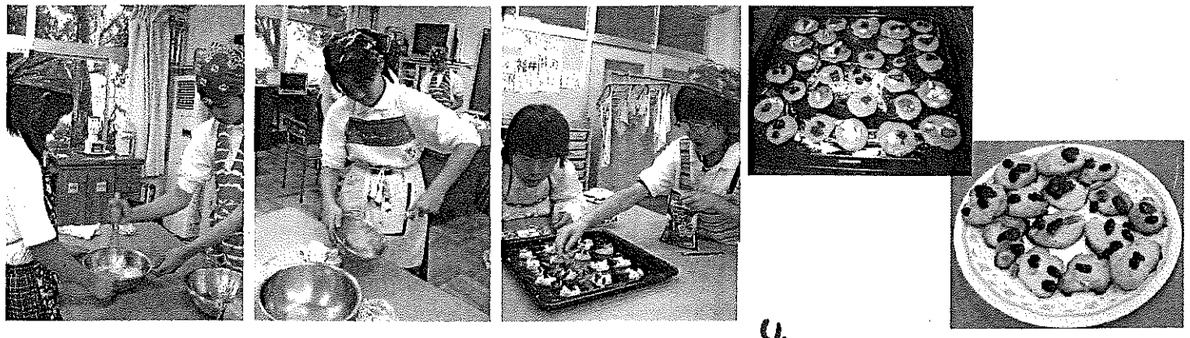
A　調理実習から学ぶ（地理学習と結合して）

4月２０日　クッキー・チョコレートケーキ・チーズケーキ

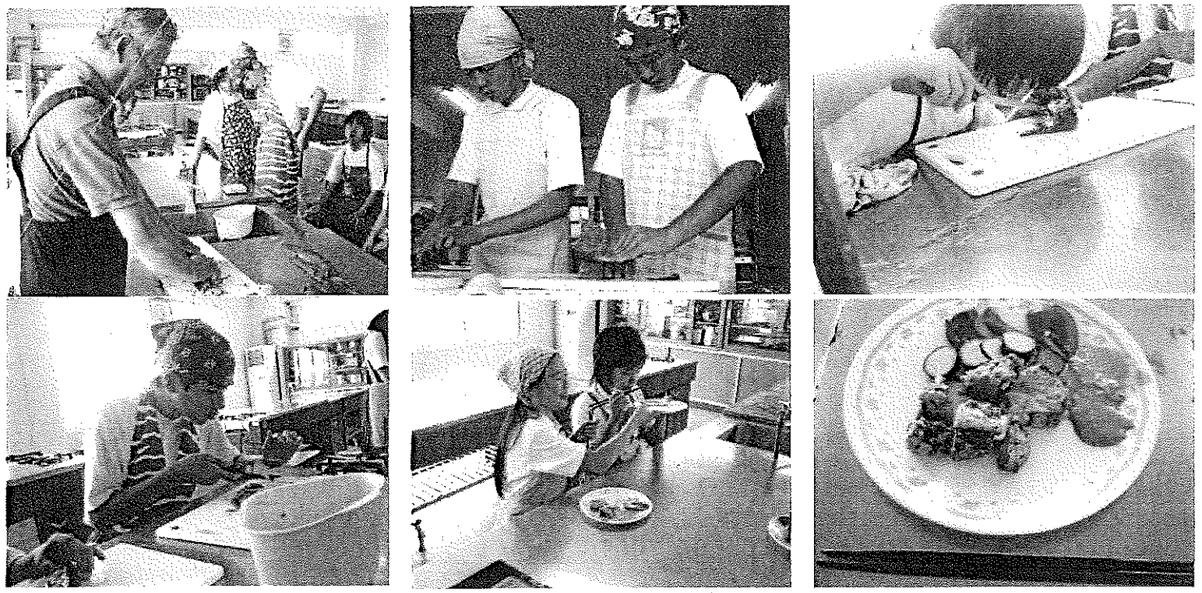


5月１１日　じゃがいも料理（カレー風味・ゴマ煮・海老ニンニクパン粉炒め）

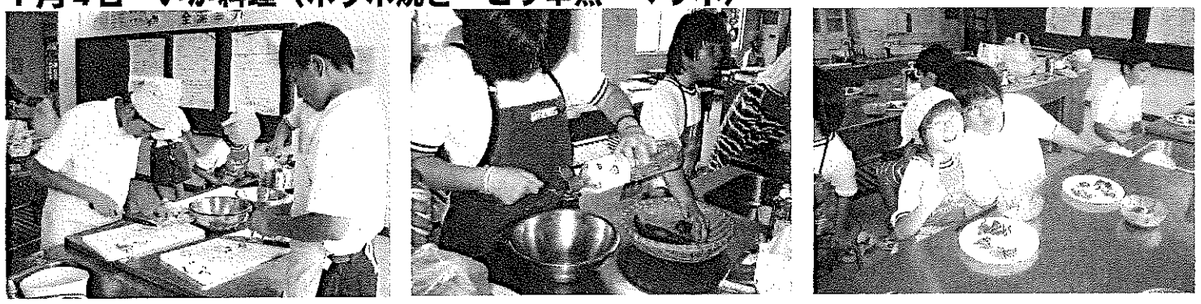
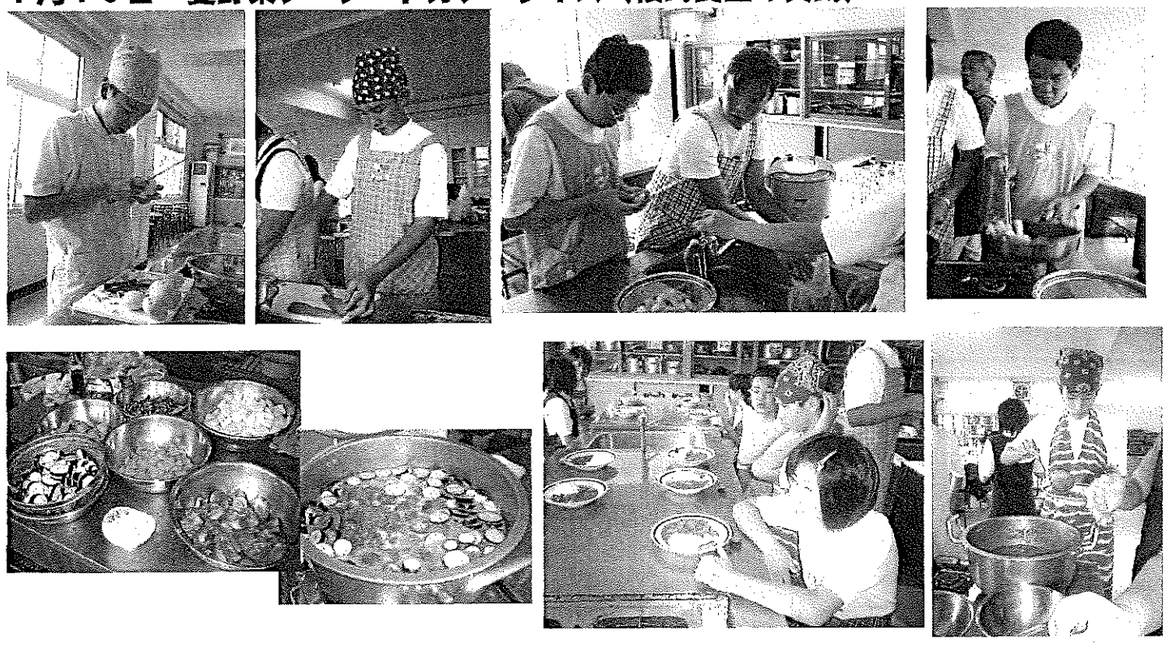
5月２５日　クッキー



6月８日　かつお料理（オイスターソース味・パセリとタマネギ入りオーロラソース味）



7月４日　いか料理（ポッポ焼き・ピリ辛煮・マリネ）



7月１９日　夏野菜シーフードカレーライス（複式食堂の実践）